

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市子ども夢パーク	評価対象年度	令和7年度
事業者名	・事業者名 川崎市子ども夢パーク共同運営事業体 ・代表者名 公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長 石井 宏之 川崎市中原区今井南町28-41 ・構成員名 特定非営利活動法人 フリースペースたまりば 理事長 西野 博之 川崎市中原区新城2-4-1セシーズイン2 401号室	評価者	青少年支援室長
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数:69,774人 (令和6年度:69,654人)	②年間延べ利用団体数:1,179団体 (令和6年度:934団体)																																
収支実績	<table><tr><td>1 収入</td><td>単位:円</td></tr><tr><td>指定管理料</td><td>87,178,000</td></tr><tr><td>雑収入</td><td>0</td></tr><tr><td>補償金</td><td>0</td></tr><tr><td>補填金</td><td>314,422</td></tr><tr><td>合 計</td><td>87,492,422</td></tr><tr><td>2 支出</td><td></td></tr><tr><td>人件費・賃金</td><td>68,823,661</td></tr><tr><td>光熱水費</td><td>4,063,032</td></tr><tr><td>委託費</td><td>10,462,650</td></tr><tr><td>消耗品費</td><td>1,050,441</td></tr><tr><td>修繕費</td><td>583,108</td></tr><tr><td>本部経費</td><td>1,543,000</td></tr><tr><td>その他経費</td><td>6,858,894</td></tr><tr><td>合 計</td><td>93,384,786</td></tr><tr><td>3 差引</td><td>▲5,892,364</td></tr></table>		1 収入	単位:円	指定管理料	87,178,000	雑収入	0	補償金	0	補填金	314,422	合 計	87,492,422	2 支出		人件費・賃金	68,823,661	光熱水費	4,063,032	委託費	10,462,650	消耗品費	1,050,441	修繕費	583,108	本部経費	1,543,000	その他経費	6,858,894	合 計	93,384,786	3 差引	▲5,892,364
1 収入	単位:円																																	
指定管理料	87,178,000																																	
雑収入	0																																	
補償金	0																																	
補填金	314,422																																	
合 計	87,492,422																																	
2 支出																																		
人件費・賃金	68,823,661																																	
光熱水費	4,063,032																																	
委託費	10,462,650																																	
消耗品費	1,050,441																																	
修繕費	583,108																																	
本部経費	1,543,000																																	
その他経費	6,858,894																																	
合 計	93,384,786																																	
3 差引	▲5,892,364																																	
サービス向上の取組	「川崎市子どもの権利に関する条例」の理念に基づいた事業執行のため、積極的に地域団体等との連携を図るとともに、子どもと話し合いながら、利用者ニーズを把握して、継続的に事業運営に反映させるなどサービス向上に取り組んだ。																																	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	条例の理念の実現	川崎市子どもの権利に関する条例の理念(子どもの参加の促進、子どもの居場所の確保等)の実現が図られているか。	5	5	5
	(評価の理由) ・冒険遊び場(プレーパーク)事業においては、子どもの主体性を尊重し、禁止事項を最小限に抑えながら、子どもが自ら考え行動する過程を重視した遊びの支援を実施している。イベント収益を活用して木材を購入し、子どもたちが発案した遊具を自ら製作するなど、子どもたちの「やりたいこと」の実現に向けた取組を積極的に行っている。令和7年度は大きな事故やけがもなく安定的な運営がなされており、他自治体に類を見ない特色ある施設として、メディアをはじめとした外部からの注目度も高い。 ・不登校児童、生徒等の居場所事業では、生涯学習の視点に立ち、誰もが安心して過ごせる居場所「フリースペースえん」を運営している。近年、小学校低学年の登録者増加や支援ニーズの多様化が進む中、これまで構築してきた関係機関や地域資源とのネットワークを効果的に活用しながら、一人ひとりに寄り添った支援を継続的に実施した。その結果、利用者が安心して過ごせる環境を維持し、安定的な事業運営につながった。また、保護者とスタッフが語る会をオンライン及び対面形式で実施し、保護者支援の充実に取り組んだ。対面開催に当たっては、個別形式やグループ形式を取り入れるなど運営方法を工夫したことで、参加者数の増加につながるとともに、参加者同士の交流や情報共有の活性化に寄与した。 ・事業成果については、年間の延べ利用者数が69,774人となり、目標値には達しなかったものの、前年度からは僅かに増加した。また、利用団体数は1,179団体となり、前指定期間の平均(730団体)の約1.6倍、前年度からは245団体増加するなど、利用者数・利用団体数ともに前年度を上回り、施設の魅力向上と利用促進につながった。加えて、「フリースペースえん」においても、小学校低学年を中心に登録者数が増加しており、前指定期間の平均(144人)の10%増を超える162人が登録し、社会的な孤立や生きづらさを抱える子どもたちの居場所の確保に寄与するなど、子どもの育ちと参加を支える拠点としての役割を果たしている。 ・条例理念の普及に向けては、「子どもの権利の日のつどい事業」に参加し、「出張夢パーク」として、これまで施設を利用したことのない親子に対して夢パークの遊びを体験する機会を提供するとともに、大人向けの講演会を開催するなど、子どもの権利に関する理解促進に取り組んだ。また、新たにInstagramによる定期的な情報発信に加え、近隣小学校や地域団体等に対して継続的に活動内容を周知することで、施設運営への理解促進に努めるほか、さらに、昨年度は全国自治体シンポジウムに参加し、夢パークの取組や活動成果について積極的な情報発信を行った。				

組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	(評価の理由) ・適正な人員配置については、利用人員、事業の目的等を考慮した適正な職員を採用、配置した。また、多様な対応を要する子どもの増加に対応するため、より柔軟な人員体制の確保が求められていることから、ボランティアの積極的な受け入れを進め、人材の確保を図った。 ・定期的な面談の実施、管理職研修の受講等の働きやすい環境づくりに取り組んだ。 ・職員の研修体制については、昨年度と同程度の規模で実施したほか、子どもたちの生命を第一に考え、新たな体制を迎える4月当初に救命救急研修を実施するなど、職員の安全管理意識の向上に取り組んだ。また、夢パークの理念に関する研修を継続的に実施することで、スタッフ間における理念や子どもの居場所の必要性、子どもの参加・意見表明の意義についての理解を深め、意識の共有を図った。さらに、イベントの活性化について子どもとスタッフが話し合う場を設けるなど、子どもの参画を推進し、条例施行25周年に向けた機運の醸成につなげた。 ・個人情報等の取扱については、個人情報保護方針、個人情報保護責任者を整備し、写真等の管理についても徹底し、個人情報漏洩等のトラブルはなかった。				
サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	4	8
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) ・施設、事業、イベントの広報については、新聞、ラジオ、テレビ、地域情報誌などの各種メディアに対して積極的に取材協力を行い、夢パークの理念や活動内容について広く情報発信した。その結果、多数のメディアに取り上げられ、施設及び事業に対する認知度の向上につながった。また、メディアによる情報発信の効果等により視察希望者が増加する中、定期的な施設見学日を設定するなど受入体制の工夫を図りながら、個人、子育て団体、地方議会議員、自治体職員等を対象に、約1,179名の視察・実習を積極的に受け入れただけでなく、SNSによる情報発信を強化し、Instagramのフォロワー数は9,000人を超えるなど高い発信力を維持しており、SNSをきっかけとした来場者の増加にもつながった。 ・利用者に対して、適切な態度、言葉で接するよう、研修などを行い基本的な接遇マナーを徹底し、日々のスタッフ間での振り返りなども利用して、利用者に対する接し方の改善を図った。それらのことを通じて、スタッフのスキルを向上させ、利用者が安心して過ごせる居場所の確保につなげている。特に「フリースペースえん」の利用者は低年齢化が進み、保護者自身にも支援が必要なケースが増加している中、利用者や保護者一人ひとりの状況に応じた丁寧な接遇や支援を実践している。また、子どもの成長支援だけでなく、子どもが安心して生活するための保護者の支援を行うため、職員間で定期的な意見交換や情報共有を実施し、より適切な対応につなげている。 ・学校及び行政機関との連携については、学校への出欠状況や利用者の近況報告を定期的に行うなど、関係機関との緊密な連携体制を構築している。また、個々のケースに応じてスクールカウンセラー等と直接情報共有や意見交換を行うなど、一人ひとりの状況に寄り添った丁寧な支援を実施した。さらに、市内児童相談所や福祉事務所からの相談に対応し、既存の制度や支援につながりにくい子どもたちの受入れを行うなど、子どもの最善の利益を第一に考えた支援に取り組んでいる。 ・利用者ニーズの把握に当たっては、利用者懇談会やアンケート、「みんなの声」掲示板の運用に加え、利用者相談窓口を活用するなど、多様な手法により利用者の意見を把握する仕組みを強化した。また、地元町内会などの意見交換会や関係機関との運営懇話会等を通じて幅広い視点から意見を収集するとともに、日常的な対話を通じたニーズ把握にも継続的に取り組んだ。把握した意見については、新たにサイクリングロードの駐輪場設置をはじめとした施設環境の改善に反映し、近隣団体との関係を構築しながら利用者の利便性向上につなげるなど、利用者ニーズを的確に施設運営へ反映した。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
(評価の理由) ・施設設備の保守管理については、必要な補修工事を適切に実施するとともに、修繕計画に基づき計画的な修繕を行うことで、施設機能の維持及び利用環境の向上に努めた。 ・利用者の安全確保については、スタッフ相互の連携のもと、チェックシートを活用して毎日2回、事故発生のリスクが高い箇所を中心に施設全体の点検を実施し、事故防止の徹底を図った。また、4月には救命救急研修を実施し、20名のスタッフが参加することで緊急時対応能力の向上に努めた。さらに、来園時の来場票記入やアルコール消毒液の設置を継続し、安全で安心して利用できる環境づくりに取り組んだ。 ・防犯防災対策については、防犯マニュアルを整備するとともに、防災設備の点検確認、火災・地震発生時の避難誘導、初期消火及び通報手順の確認等を内容とした防災・避難訓練を実施した。また、訓練には来園者にも参加してもらうことで、より実践的な訓練を行い、利用者及びスタッフの防災意識の向上と緊急時対応体制の強化を図った。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	5	3	3
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか			
(評価の理由) ・会計手続については、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、会計処理及び金銭管理を適切に処理した。 ・支出については、人件費の増により、収支実績はマイナスとなっているが、計画に基づいた適切な収入・支出がなされている。					

注) 配点×(評価段階/5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	71	評価ランク	B
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

子どもの権利条例の理念の実現のため、子どもの参加・意見表明の促進や子どもの居場所の確保等について継続的に取組を行っている。子どもや市民ボランティアとともに話し合う場を通して、様々な意見を引き出し、イベントの実施に際して事業の企画・運営にも子どもを巻き込み、市民ボランティアにも協力をいただきながら実施するなど、積極的な創意工夫を行いながら事業を実施している。利用者のニーズにも迅速かつ柔軟に対応しながら、子どもの自由な遊び場や不登校児童・生徒等の居場所の安定的な確保に向けた役割を十分に果たしている。このような取組がメディアを通して広く周知されており、子どもの居場所のモデルとして他自治体や子育て団体等から多くの視察を受け入れるなど重要な役割を担っていることは高く評価できる。今後も、子どもの最善の利益の確保を図るため、利用者のニーズを的確に捉えながら、継続的に自己研鑽に努め、業務に取り組まれない。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

次年度以降、共同運営事業体の代表者は変更となるものの、引き続き同一事業者が施設運営を担うことから、これまでに蓄積してきた知識・経験を最大限に活用されたい。併せて、社会状況の変化を的確に捉え、多様な背景を有する子ども及びその保護者一人ひとりに対して丁寧な対応を行うとともに、子どもの参画や意思表明の促進、居場所の確保に資する施設運営に努められたい。